

臼田協働まちづくりWS 健康グループ

医療

- 1、市、または病院内に【よろず相談所】を設け、住民健康管理総合データベースを作成し、「いつでも、どこでも」気軽に立ち寄り相談できるコーナーの設置を要望したい。
(医療—①・⑥ 保健・健康—①)
- 2、地域との連携をより深めるため、地域住民との定期的懇談会の開催や各種団体（学校、保育園、職場、老人会、医療職OB）との連携を強めることが必要。
(医療—①④)
- 3、病院と住民、各種団体との連携を強化し、定期的懇談会の開催。住民の医療に対する事等、気軽に参加出来る学習会、共に同じ目線で継続発展させる。
- 4、住民のニーズを吸い上げる体制の組織化。 (医療①)
例)市民公開講座のテーマとしてどのような内容がいいのでしょうか等。
- 5、病院は年一回市民向けの講演会を開き、その後引き続き、市民と話し合う時間を設ける
- 6、住民は開業医を含めて自らのかかりつけ医を持つこと。病院と開業医は連携を強めること。
(医療—②)
- 7、ガイドラインの作成(このような場合は開業医へ、このような場合は佐久病院へ)を実施し診療に関わる住民への啓発を。
(医療②)
- 8、医療機関側の《診てやっている》、患者側の《保険料を払っている》の意識の高揚が必要ではないかと思えます…双方の学習が不可欠ではないでしょうか。
(医療—③)
- 9、患者と医療機関(病院・開業医)との間は互いに「ありがとう」の心を持った信頼関係・コミュニケーションの充実が必要。(医療—③)
- 10、各組織を安心して運営していくために医療機関に求めることを具体化していく。
(医療④)
- 11、佐久市医療体制等連絡協議会の定期的開催、及び旧臼田町の「保健補導委員会」を復活し、地域住民とのコミュニティーを図る組織作りが必要と思えます。
(医療—②・④・⑤)
- 13、病院は地域ケア部門を強化し、住民もこれを支える役割を果たすことが必要。
(医療—⑤)

- 14、人件費が発生することに対して、病院と住民の共通認識を高め打開策を検討する場を。
(医療⑤)
- 15、病院は、職員を増員し、地域ケアスタッフの負担を軽減するよう要望する。住民も地域ケアについて機会を捉え学習し、スタッフを支えていく役割を果たす。
- 16、市は「医の交番」など、市民が気軽に寄れる相談コーナー設置が望ましい。
- 17、病院はまちの中に、「医の交番」を設けるなど、住民が気楽に立ち寄れる相談コーナーを開設することを要望します。

保健・健康

- 1、まち全体が健康づくりに向けて取り組むため、市民、行政、病院が一体となった推進体制(組織・システム)づくりが不可欠。
- 2、幼児から高齢者まで住民全員の健康管理システム(健康管理台帳など)の構築が重要。
- 3、健康づくりにむけて、市民(幼児から高齢者)・佐久病院・行政が一体となり、協働する。
- 4、住民健康管理システムの構築と病院施設あるいは地域施設を利用して、健康増進の為に運動療法等の実施。
- 5、病院は、幼児から高齢者まで一体となった住民健康管理システムの構築が望ましい。
(市も、それに協力する必要がある)
- 6、一般住民、障害を持つ人、生活弱者、子供等、健康づくりや生活習慣病の対策や介護予防のための学習や指導の出来る機会や施設を創設し、地域としてまたは個人として実行できるシステムの構築。
(保健・健康—②・③・④)
- 7、市・病院・市民は、三者による協働で、より良い健康づくりが望ましい。
- 8、病院は、健康づくりに向けて、市民・病院・行政との協働を具体化していく。
- 9、病院や地域の各施設を活用して、健康増進の諸活動(運動療法、各種教室)の展開。
- 10、各種教室(対象者を年齢や活動状況で区分)の開催。会場は市の施設、講師は病院より。
- 11、病院は、院内施設や地域施設を利用して、市民の健康増進を図る運動療法等の実施が望ましい。

- 12、病院は病院施設や地域施設を利用して、健康増進のための運動療法などを定期的
に実施していく。
- 13、生活習慣病の発見・予知など、医療から予防への意識改革を。
- 14、病院は、生活習慣病などの早期発見や予知など保健予防活動を強化する必要がある。
(市もそれに協力する必要がある)
- 15、病院は生活習慣病の早期発見・予知など、住民が医療から予防に重点を置いた健康
生活を行えるよう行動していく。
- 16、臼田地区に産科・小児科がどうしても必要だと考えます。また地区内に一箇所の病児
保育、病後児保育所の建設が必要と考えます。 (保健・健康—⑤)
- 17、お産や幼児の病気などについての勉強会を要望。
- 18、医療①に沿って、住民ニーズ主導の市民学習会を開催する。
- 19、病院は、お産や幼児の病気などについて、病院スタッフによる市民向け勉強会の定期的
実施を行うことが望ましい。
- 20、健康保険料及び介護保険料の抑制は、予防と早期発見だと思います。そのためには健
康診断やスクリーニングが不可欠です。健診の実施率向上のための施策及びアンケート
の実施等の出来る組織。 (保健・健康—⑥)
- 21、保健予防事業により、健康な人生を送ることが可能。また結果として医療費や介護保険
料が抑制されること等にもつながる。これら指導を中心的に担うセンターが必要。
- 22、健康管理センターの業務内容を体系化していく。
- 23、病院は、保健予防事業をより整備し、医療費や介護保険料等も抑制していく指導セン
ターの役割を果たしていくことが望ましい。
- 24、市、または病院内に【よろず相談所】を設け、住民健康管理総合データバンクを作成し、
「いつでも、どこでも」気軽に立ち寄り相談できるコーナーの設置を要望したい。
(医療—①・⑥ 保健・健康—①)

福祉

- 1、「自分の健康は、自分で作り自分で守る」から「みんなの健康を、みんなを守る」という意識にしていくためには、住民、医療機関、行政が一つになって進まなければならない。そのための役割を明確にし、夫々が責任を持って実行するシステムが必要となる。
(福祉―①)
- 2、病院・施設・在宅とそれぞれ、連携した医療・福祉事業の展開が必要。特に在宅介護は、市民全体で支える意識が重要だ。
(福祉①)
- 3、地域医療の取り組みとして、在宅介護と在宅医療の充実や、介護や子育てなどにボランティア支援組織の拡充。
- 4、病院は、市民の理解と協力を得ながら、在宅介護と在宅医療のより一層の充実を図って欲しい。
- 5、制度改革を待たず実績を作るために、必要な事項の整理と問題解決のための具体的方策の検討の場を。
- 6、佐久市内に新設された市民活動サポートセンターの有効活用を推進していく。また、地区内の社会福祉協議会、地域公民館の積極的参画を推進していく。
(福祉―②・③)
- 7、知識・経験を生かして社会貢献したい高齢者の活躍の場(ボランティア・配食サービス等)の提供
(福祉②)
- 8、シルバー人材センターの活性化。登録システムの検討、定期的な見直し。
- 9、病院と市は、知識や経験を活かして社会貢献をしたい高齢者の活躍の場(各ボランティアや配食サービス)を支えていく必要がある。
- 10、病院は、豊かな知識・経験をもった高齢者をスタッフとして十分活かせるような活躍の場を提供する事が望ましい。ボランティア・配食サービス・清掃・相談コーナー等
- 11、介護や子育てなどに取り組む、ボランティア組織の育成や活動支援が必要。(福祉③)
- 12、病院は、介護や子育てなどに悩んでいる住民のために、経験者・専門職のボランティアにより地域支援を充実させて欲しい。
- 13、臼田地区内には、高齢者住宅やグループホーム等の施設がないのが現状である。病院周辺にそれらの施設群の建設を切望します。
(福祉―④)
- 14、終末期医療施設(ホスピス)の設置要望。医療機関から支援を受けられる立地に。
(福祉④)
- 15、病院は終末期の医療(ホスピス)の建設を行って欲しい。
 - ・ 病院から2～3キロの距離
 - ・ 病院のバックアップが受けやすい立地